

## 平成 2 1 年 5 月の解説（週間天気予報）

### 【5月の天候状況】

上旬は、高気圧に覆われて全国的に晴れましたが、旬中頃に気圧の谷がゆっくりと本州付近を通過したため、東・西日本では曇りや雨のぐずついた天気となりました。中旬も晴れる日が多くなりましたが前半と後半に低気圧が日本海を進み、ほぼ全国的に雨となりました。沖縄と奄美地方では 18 日頃に梅雨入りしました。下旬の前半は低気圧が日本付近を通過したため、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。旬末も、上空に寒気を伴った低気圧が日本の南岸をゆっくり東に進んだため全国的に天気はぐずつき、東日本の太平洋側では大雨となったところもありました。

月を通しての日照時間は南西諸島で平年よりかなり多くなり、北日本の日本海側と西日本の太平洋側でも多くなりました。降水量は西日本で平年よりかなり少なくなり、北日本と南西諸島でも少くなりました。気温は北日本と東日本では平年よりかなり高くなり、西日本でも高くなりました。

### 【5月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年<sup>（注）</sup>より4ポイント高い73%でした。北日本と九州地方では7から9ポイント高くなり、沖縄地方では18ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は例年に比べて北陸地方と北日本では0.3 から0.5 小さく、一方四国から沖縄地方では0.3 から0.4 大きくなり、全国平均では例年並みの2.9 でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は例年に比べて沖縄地方で0.6 大きくなりましたが、その他の地方は小さくなりました。特に北海道、関東甲信、東海地方で0.3 から0.4 小さく、全国平均では例年より0.1 小さい1.9 でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【5月の週間天気予報から】

5月29日の地上天気図（図1）では、四国の南海上に動きの遅い低気圧があります。この低気圧は、27日に九州の南東海上で発生したあと、28日に四国の南海上で発達し、その後次第に弱まりながら、31日にかけて本州南岸をゆっくり東北東に進みました。この低気圧の東側では、南よりの湿った空気が流れ込み、曇りや雨の天気が続きました。

4日前の25日発表の週間天気予報に使用した29日の予想図(図2)では、低気圧が北緯30度より南にあり、降水域は関東地方からは離れた南海上に予想されています。このため、関東地方は東よりの風の影響で雲が広がりやすいものの、雨は降らないと予報しました。一方、3日前の26日発表の週間天気予報に使用した予想図(図3)では、実際と同様に、低気圧が四国の南の北緯30度付近で発達したあと、本州の近くをゆっくり移動する予想に変わったため、29日は関東地方に湿った空気が流れ込み、雨が降るという予報を発表しました。

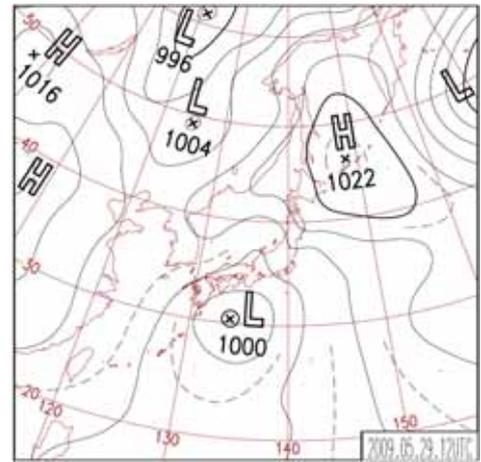


図1 5月29日21時の地上天気図

この低気圧は上空の寒気が主な原因となって発生したのですが、このようなタイプの低気圧は早くからの確に予想できないことがあります。このため、低気圧の予想が大きく変わり、その結果、予報が変わる場合もありますので、できるだけ最新の予報をご利用願います。

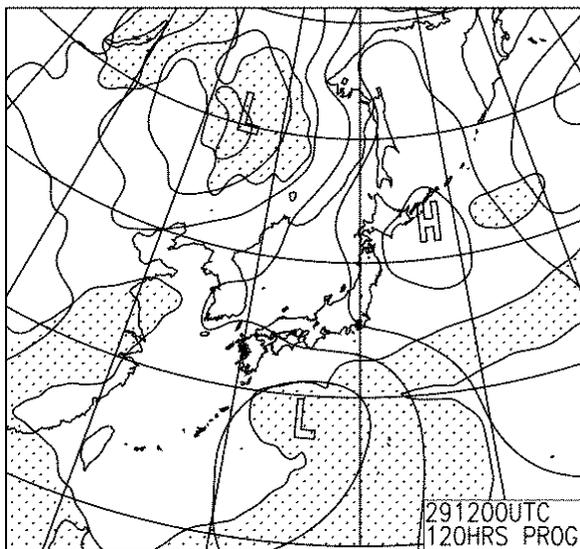


図2 5月25日(4日前)の予報で使用した5月29日21時の地上予想図  
(水玉模様は降水が予想される範囲を表す)

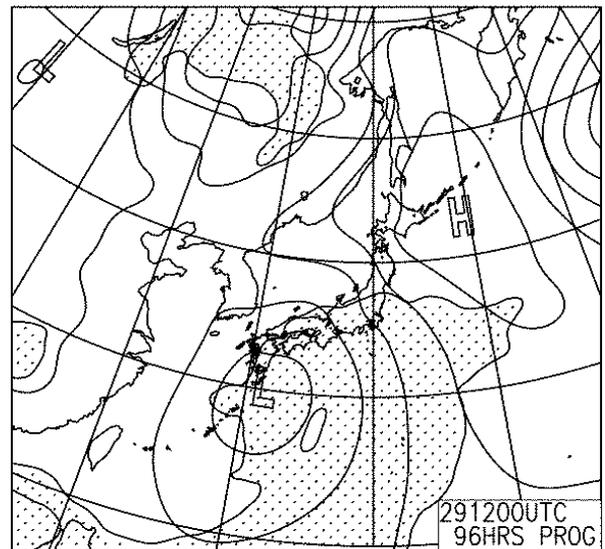


図3 5月26日(3日前)の予報で使用した5月29日21時の地上予想図  
(水玉模様は降水が予想される範囲を表す)

### 【7月の週間天気予報の利用にあたって】

例年6月から7月にかけて全国各地に大雨や長雨をもたらす梅雨も、7月の中旬から下旬にかけて各地で次々と梅雨明けし、太平洋高気圧に覆われて全国的に晴れて暑い日が続くようになりますが、年によっては梅雨明けが遅れることもあります。7月の後半に低温や日照時間が少ない日が続くと農作物等の成長に悪影響を与え、北・東日本の太平洋側などでは冷害となることもあります。週間天気予報で曇や雨の予報が続く際には、気温の予報にも注意し、早めに冷害等への対策をとることをお勧めします。